

## ④ COPD (慢性閉塞性肺疾患)

### 愛知県の状況

- ★ 平成 22 年の COPD 死亡者数は、689 人となっており、そのうち男性が8割と  
なっています。
- ★ COPDの認知度は、約4割となっています。

### 基本的な考え方

COPD(慢性閉塞性肺疾患、Chronic Obstructive Pulmonary Disease)は、有害な化学物質や粉じんを長期間にわたって吸い続けることで起きる肺機能低下や炎症性疾患で、咳・痰・息切れといった初期症状から徐々に呼吸障害が進行します。近年、日本においてもCOPDによる死亡者数は増加傾向にあります。高血圧や糖尿病などの疾患とは異なりなじみの薄い疾患名であることから、県民に十分認知されておらず、多くの患者が医療機関を未受診、未診断となっています。

しかし、COPDは禁煙による予防と薬物療法による治療が可能な疾患であるため、COPDの名称・疾患に関する知識の普及、禁煙指導などに取組み、早期発見による早期治療の促進を図る必要があります。

### 重点目標

#### ア COPD の早期発見

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
COPDの発見率の向上	問診票等を導入している医療保険者数の増加	今後把握予定	今後設定予定	—
		調査方法検討中	—	—

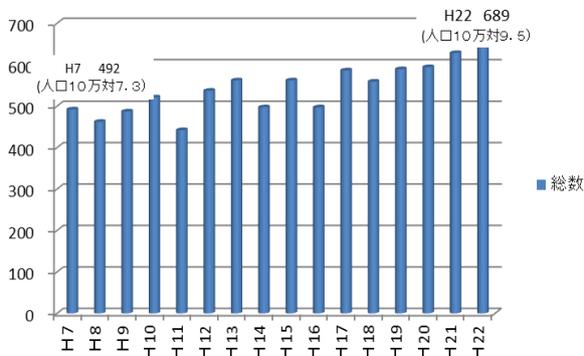
#### 【目標値の考え方】

COPD は 40 歳以上に発症が多く、主症状により生活に支障をきたすようになると重症化している例が多いため、早期発見が望まれる。そのため、特定健診等実施者である医療保険者に健診時における問診票や肺機能検査等の導入を進め早期発見を推進する。

- ・ COPDの主要原因は長期にわたる喫煙習慣であり、日本のたばこ消費量は近年減少傾向にあるものの、過去のたばこ消費による長期的な影響と急速な高齢化により、今後、COPDの罹患率、死亡率の増加が懸念されます。
- ・ 平成 22 年厚生労働省「人口動態統計」によると、日本のCOPDによる死亡数は増加傾向にあり、平成 22 年には 16,293 人となり、死亡順位9位、男性においては7位(12,681 人)となっています。愛知県においても、平成 22 年に死亡数が 689 人となり、今後高齢者人口の増加や長期喫煙者の増加から患者数の増加が予想され、早急な対策が求められます。(図1、2)

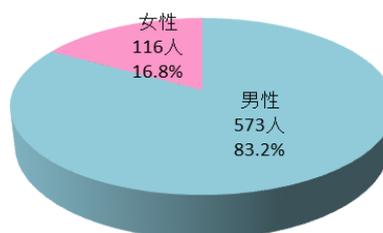
- ・ 特に40歳以上の者に対し、肺機能の検査機会を増加させることで早期発見・早期治療が可能となるため、健康診査等での問診票や検査の導入により発見率の向上を図ることが必要です。

図1 COPD 死亡数の推移



(資料:厚生労働省「人口動態統計(愛知県分)」)

図2 COPD 死亡数(性別)



(資料:平成22年厚生労働省「人口動態統計(愛知県分)」)

健康・行動目標

イ COPDの認知度

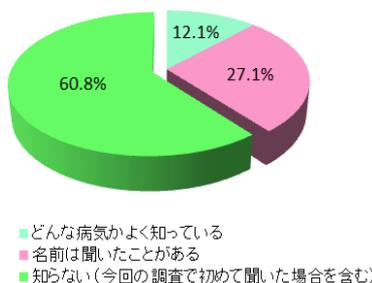
項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
COPDの認知度の向上	COPDの認知度	39.2%	80.0%以上	25.0%
		平成24年愛知県「生活習慣関連調査」	平成34年度	平成23年GOLD日本委員会調査

【目標値の考え方】  
 COPDはなじみの薄い疾患名であるため、県民に十分認知されておらず、多くの患者が未診断、未受診であるため早急にCOPDの認知度を向上させる必要がある。目標値は、平成24年愛知県生活習慣関連調査において、「COPDについてどんな病気かよく知っている」又は「名前は聞いたことがある」と回答した者を指標とし、メタボリックシンドロームの認知度向上に取組んだ事例を参考に、80%とする。

- ・ COPDの発症原因の90%はたばこ煙によるものであるため、COPDの発症予防と進行の阻止は禁煙によって可能であり、早期に禁煙するほど有効性は高くなります。

また、薬物療法による治療も可能な疾患であるため、早期発見による早期治療が重要です。そのため、COPDが予防可能な生活習慣病であることについて、県民に広く理解を図ることが必要です。(図3)

図3 COPD の認知度



(資料:平成24年愛知県「生活習慣関連調査」)

## 環境目標

### ウ COPDの普及啓発

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
COPDの普及啓発の推進	COPDの知識普及のための取組を行っている市町村数の増加	14市町村	54市町村 (100%)	—
		平成24年愛知県「市町村実態調査」	平成34年度	—
【目標値の考え方】 COPDの認知度向上を図るためには、県及び市町村等における普及啓発の推進が必要である。平成24年愛知県市町村実態調査において、「COPDの名称ならびに疾患に関する知識普及の取組を行っている」と回答した市町村を指標とし、全ての市町村(100%)での実施を目標とする。				

- ・ COPDの認知度を高めるためには、COPDの名称と疾患に関する知識の普及、COPDが予防可能な疾患であることの理解促進に向けた活動が求められます。愛知県は、認知度向上のため普及啓発に努めますが、県だけでなく市町村や関係団体等においても同様の取組を進めていくことが重要です。現在、「COPDの名称ならびに疾患に関する知識普及の取組を行っている市町村」は14団体であり、こうした取組の拡大を図っていくことが必要です。

### エ 病院・診療所の連携の推進

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
病院・診療所の連携の推進	クリティカルパス等を活用した病院・診療所の連携施設数の増加	今後把握予定	今後設定予定	—
		調査方法検討中	—	—
【目標値の考え方】 早期診断、確定診断、疾患管理面において病院・診療所の連携は重要であり、クリティカルパス等を活用した病院・診療所の連携を推進する。				

- ・ COPDの主症状は、咳、痰、息切れであり、症状が出て年齢によるものとして放置するうちに悪化した後医療機関を受診する例が多く、早期診断や確定診断に病院・診療所の連携が欠かせません。また、疾患の管理面においても病院・診療所の連携が望ましく、<sup>9</sup>クリティカルパス等を活用した連携を推進することが重要です。

## 本県の取組と役割

- ◎ COPDの名称・疾患に関する知識の普及啓発に努めます。
- ◎ COPDの発症予防と進行阻止のため、禁煙希望者への禁煙指導を支援します。
- ◎ COPDは予防、治療が可能な疾患であるため、早期発見の推進、病院・診療所の連携による治療体制の充実を図ります。

<sup>9</sup> クリティカルパス：地域内で各医療機関が共有する、各患者に対する治療開始から終了までの全体的な計画のこと。